

News Letter

ニュースレター

Contents

- 活動報告
OCで親子スペース設置&教職員向け一時託児を実施
VOC2022男女共同参画室の相談窓口を設置
南近畿女性研究者支援ネットワーク会議にて事例報告
JSPS男女共同参画推進シンポジウムにて事例報告
「共創コミュニティ宣言」草案へのアンケート結果
- Information
ベビーシッター利用の経済的補助範囲拡大
- インタビュー
スタートアップ研究費を受給してvol.19(日永田助教)
アカデミックアシスタント等助成制度を利用してvol.11(中田助教)

活動報告 2021.8 → 2022.3

活動報告 2021年11月20日

地域向けオープンキャンパス(OC)で 親子スペース設置&教職員向け一時託児を実施



小さなお子さま連れの方が授乳・おむつ替えのできるスペースを学生会館1階に設置しました。各研究領域棟の各トイレ内にベビーチェアやベビーシートがあることの案内版も設置しました。
学内の一時託児室にて、教職員向けの無料託児も実施しました。

活動報告 2022年2月26日

受験生のための バーチャルオープンキャンパス2022にて 相談窓口を設置

バーチャルオープンキャンパス2022のライブイベントとして、男女共同参画室の相談窓口を設置し、各領域棟の女性休憩室の紹介を行いました。



活動報告 2021年8月5日

南近畿女性研究者支援ネットワーク会議にて 本学取組事例を報告

南近畿女性研究者支援ネットワーク会議(Zoom開催)にて、取り組み事例の報告を行いました。
男女共同参画の取組事例のうち「研究支援員の配置と役務委託費助成制度」「いつでも誰でも育休取得のできる規程改正」「スタートアップ研究費」について報告しました。報告後は参加者からの質問に答えました。

活動報告 2021年12月15日

JSPS男女共同参画推進シンポジウムにて 本学取組事例を報告

日本学術振興会主催のJSPS男女共同参画推進シンポジウム『研究とライフイベントの両立へのヒントがここに!』(Zoom開催)の「大学等の優良事例のポスターセッション」にて、本学の事例報告を行いました。2020年4月に雇用契約期間中にいつでも育児休業を取得できるよう就業規則を改定し、労使協定を廃止した経緯について報告しました。ポスターセッションでは、報告を行った各大学とともに参加者からの質問に答えました。



大学のダイバーシティ方針 「共創コミュニティ宣言」草案へのアンケート結果

2022年1月17日~2月7日に全教職員と学生を対象として、大学のダイバーシティ方針を示す「共創コミュニティ宣言」草案に対するアンケートを実施しました。男女共同参画室のもとに置かれたプロジェクトチームメンバーの教職員10名が作成した草案に対する意見聴取を行うことが目的でした。1768名の対象者のうち、22%(388人)が草案に目を通し、宣言の内容に「賛同する」が275名、「賛同しない」が4名、「どちらでもない」が15名、自由記述欄への回答は35件ありました。いただいたご意見を反映した「共創コミュニティ宣言」は2022年4月に公表予定です。

INFORMATION

ベビーシッター利用の 経済的補助範囲拡大

2022年4月より、本学が法人契約をしている業者以外の事業者の利用希望があった場合、入会金・年会費を一人あたり22,000円を上限として補助します(一年度あたり)。
また、内閣府のベビーシッター電子割引券を活用すると、一日の利用料金から4,400円の割引を受けることができます。Covid-19による休園休校の場合は1日あたり11,000円の割引が受けられます。詳しくは <https://www.naist.jp/gender/index.html>



Interview

インタビュー

男女共同参画室WEBサイトで連載中

本学で活躍する研究者へのインタビュー
「それぞれの働き方」

<https://www.naist.jp/gender/contents/message/interview/>

スタートアップ研究費を受給して

足場を整えつつ 実験の準備を進めることができた

着任と同時にスタートアップ研究費をいただけるのは「ありがたい話だ」と思いました。ポストの切り替わりの時期は予算が取りにくく、また転出先へ継続できる予算もなかったため、本制度は本学のポストへの応募の後押しになりました。

本制度による一番の成果は、サーベイ論文を発表できたことです。私は社会的感情について研究をしているのですが、社会的感情は研究により定義も異なっており、工学的なアプローチの研究も少ないので、きちんと調べ、そしてそれを基礎として実験や調査へ進められればと考え、まずはサーベイ論文としてまとめることに集中しました。

もしこれがすぐに成果を求められる研究費であれば、急ピッチで実験をしないとイケませんが、本制度はスタートアップを支援して下さることで、足場を整えつつ実験の準備を進めることができました。今まさに進行している実験に用いる機器も複数購入することができ、ありがたかったです。

vol.19

情報科学領域 数理情報学研究室(池田研)
日永田 智絵 助教



WEBサイト
「それぞれの働き方」vol.27もチェック!

vol.11

バイオサイエンス領域 植物代謝制御研究室(出村研)
中田 未友希 助教



WEBサイト
「それぞれの働き方」vol.28もチェック!

アカデミックアシスタント等助成制度を利用して

複数のプロジェクトは アシスタントのおかげで回っている

妊娠中の3ヶ月間、子どもが1歳になるころから現在までの12ヶ月間の二度、利用しています。妊娠後期は体力面の変化もあって力仕事への負担が大きく、グリーンラボでの仕事をアシスタントに担っていただきました。おかげさまで植物の様子と環境データの両方を取得可能なモニタリング装置を設置することができました。

産休からの復帰後は、自営業の夫が家で子どもをみていましたが、ふたりでの家事と育児は想定していた以上にたいへんでした。子どもが入院したり、夫が体調を崩していた時期もあり、私の勤務時間は出産前ほど長くはできませんでしたし、出勤できない日もありました。

子どもが1歳になるころに改めて本制度に申請し、利用を再開しました。アシスタントには植物のお世話や実験の補助を担っていただいています。現在、複数のプロジェクトを並行して走らせていますが、アシスタントにきていただいてなんとか回っています。

